

名でした。このような人数で、もし重要な議案を採決されれば会員の意図しない結果となることもあり得ます。

会則の見直案を執行部で協議の上立案し理事会上程できればと思っております。会員各位のご意見をお聞かせください。

新潟県仏教会理事代理

高見 英親

この度、新潟県仏教会理事代理を拝命いたしました、浄土真宗浄興寺派・浄泉寺の高見英親でございます。

前住職の急逝を受け、約一年半前に寺を継承したばかりの未熟な身ではございますが、このような重責を仰せつかり、不安とともに大なる学びの機会をいただけることを、深くありがたく存じております。何卒よろしくお願い申し上げます。

私は長年にわたり県立高校で教員を務めてまいりま

した。その経験を通じて、若い世代の宗教観や文化への関心の変化を肌で感じております。特に、高校生の言動からは、仏教的な儀式（お盆、彼岸会など）が「古臭い」「形式的」と見られ、関心を持たれにくい現状が浮かび上がってまいりました。また、行事が「つまらない」「義務的」と捉えられ、そこに込められた仏教的・文化的な意味が十分に伝わっていないことにも、もどかしさを感じております。

加えて、少子化の影響により学年規模が縮小し、卒業生による地域行事の担い手不足も顕著となっております。地域のつながりが希薄化する中で、「簡単なお葬式と納骨所さえあれば十分」との声が聞かれる時代となりました。

こうした状況の中、宗派の垣根を越えて仏法の智慧を伝えるため、地域仏教会や県仏教会の役割は、今後ますます重要性を増すものと感じております。

話は変わりますが、数年前に県仏通信にて「仏教のDX化」に関する記事を拝

見し、当時の職場でもDX化が進められていたことから、大変興味を持ちました。仏教のDX化とは、伝統を尊重しつつ新しい技術を活用し、寺院や宗教活動を現代的に進化させる試みです。

たとえば、コロナ禍で広まったオンライン法要、公式ホームページやアプリによる信徒とのつながりの強化、キャッシュレス化やSNSを活用した情報発信などが挙げられます。これらは、若い世代にも仏教の教えを届ける手助けとなっております。

さらに最近では、AI化が進み、今後10～20年で現在の仕事の約47%がAIやロボットに代替される可能性があるとも言われています。お寺の仕事もAIに置き換わるのか、試しにAIに尋ねてみたところ、以下のような回答が得られました。

檀家台帳の整理や法要の予定管理、寄付の記録などの事務作業の効率化。法話の草案づくり支援。遺族との会話をもとした法名の創作支援。仏教的な視点か

ら悩みに答える「仏教対話AI」。読経や法話を行うロボット僧侶の導入。AR技術によるバーチャル参拝やオンライン法要など、さまざまな可能性が示されました。

これらは、仏教の伝統を守りながらも、現代のニーズに応える新たな布教の形として注目されています。

とはいえ、お寺の本質は「人の心に寄り添うこと」であり、悲しみや不安を共有し、細やかな感情に向き合う力は、人間にしかできないものです。AIはあくまで補助的な存在であり、仏教の教えをより深く、広く伝えるための道具として活用すべきだと感じております。

未熟者ではございますが、皆様のお言葉一つひとつを糧とし、学びを深めながら歩んでまいります。今後とも温かいご助言を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

事務局長就任の挨拶文 新潟県仏教会事務局長 坂井 祐円

このたび、事務局長を拝命いたしました坂井祐円と申します。微力ながら、本仏教会の活動を支え、仏教の教えを現代社会に活かしていくための一助となりますべく、誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私はこれまで、仏教思想に基づく死生学の研究や教育活動を通じて、「いのち」「ケア」「無心」といったテーマについて深めてまいりました。特に近年では「いのち教育」の実践や、仏教的な靈性の回復を目指す取り組みに力を入れています。そうした中で、仏教が本来持っている「共感力」、すなわち「苦しみや悲しみに寄り添う心」こそが、現代の諸々の社会的課題に向き合うための大きな原動力にほかならないことを実感し